

Voice

ヴォイス
第2号

大分県立芸術文化短期大学 サービスラーニング公式新聞

第2号 / 発行2010年3月20日



「大分七夕まつり」のエコ風船



多様な経験を生き生きと 画像ソフトや動画を駆使

「地域活動フォーラム」開く

written by 「Voice」第2号編集長 中村 早希(1年)

大分県立芸術文化短期大学のサービスラーニング(社会貢献学習)が、文部科学省の「大学教育推進プログラム」に認定されて約半年。その成果を初めて対外的に発表する「芸文短大地域活動フォーラム」が1月29日、大分市コンパルホールで行われた。

09年度後期に実施されたプロジェクトに参加した学生たちが、現場で味わった多様な体験をプレゼンテーションした。報告されたのは「SAEMON23」(7月)「日韓次世代交流映画祭」(12月)など計13プロジェクト。学生たちはパワーポイントや動画を駆使して、生き生きとした表情で発表した。

報告後、大分合同新聞報道編集局特別編集委員の可児敦彦さんなど、6人の方々がコメント。「元気をもらった」「自信を持って取り組んでほしい」など、体験学習としてのサービスラーニングを高く評価する声が多かった反面、「発表の仕方が一律的」「単なる体験発表会となっている」など、辛口のアドバイスも少なくなかった。

『第2回フォーラム』では、今回の反省点を見直して、さらにパワーアップできるように努力したい。



〈議者のコメント〉

「体験を仲間と共有する」尊さに共感

～大分県議会議員：平岩純子さん～

「学生たちの報告を楽しみにやってきました」。1月中旬、出前授業のため本学を訪問したことがある県議会議員の平岩純子さんは、体験発表の内容を「社会参加活動を通して学んだことをコンパクトにまとめている」と評価した。

サービスラーニングの印象を尋ねると、「やるじゃん学生！元気をもらった」と明るい笑顔。「誰かが誰かのために何かをしてあげるのではなく、誰かが誰かと一緒に何かを共有する。この作業をしていることが何よりも尊い」と語った。

「ここで経験したことを、いろいろな活動の場で生かしてほしい」「小さなところから一歩一歩、確実に成長することで自己実現を図り、夢の実現に繋げてもらいたい」と平岩さん。私たちが彼女のように地域を支える人材になりたいと思った。

written by 齋藤 菜(1年)

